

荻野正二ヘッドコーチ(右)にトス指導を受ける御船小の選手たち



プロから学ぶバレーの極意

サントリーサンバースバレー教室

バレーボールVリーグの強豪チーム「サントリーサンバース」のバレー教室が9月25日、スポーツセンターで開催されました。バレーボール選手の育成や競技力の強化、青少年の健全育成などを目的に、フネッピーすこやかスポーツクラブ(竹内昭剛会長)が主催。県内の小中高校生約150人が参加して、プロ直伝のトスやレシーブなどが直接指導。参加者で御船中2年バレー部の増田未来さん(滝川)と井島悠さん(辺田見)は、「教える方がうまい。プロだから、プレーも違って、すごく手本になりました」と話していました。

食育でつながる地域の輪

滝尾学童かかしづくり

滝尾学童たんぼぼクラブで9月13日、滝尾分館でかかしづくりを行いました。同クラブでは、県からの食育モデルの指定を受けて、親子で食育活動の輪を地域へ広げる事業を展開中。かかしづくりも、同事業の一環として実施しました。滝尾小1年の本田瑞葵さんは、「ちょっと変なかかしができたけど楽しかったです」と話していました。同クラブでは、完成したかかし3体を学童で管理する近くの田に設置するほか、米や味噌づくり、米料理、米の加工品などの事業を今後取り組んでいく予定です。



かかしに衣類や帽子を飾りつけていく児童と保護者

毎月15日は授業風景を公開

御船中「学校へ行こうデー」

地域に授業風景を公開する「学校へ行こうデー」が9月15日、御船中学校(加藤敬之校長、496人)で行われました。これは、地域住民に学校を身近に感じてもらい地域連携を深めていこうと、2学期からスタートした取り組みです。参加した囑託員や民生委員の長、保護者などは、1～3年生までの全クラスの授業をくまなく見学してまわりました。見学後、参加者は加藤校長を含む学校関係者と意見を交換。「生徒の授業参加に改善がみられている」「服装の悪い生徒が数名いる」などの意見があがっていました。3年生の伊藤可奈さん(辺田見)は、「いつもと雰囲気違って緊張しますが、集中力が高まります」と話していました。「学校へ行こうデー」は毎月15日に開催されて、誰でも自由に授業を見学できるとのことです。



各クラスの授業風景を廊下や教室に入って見学する参加者

4年生以上の児童たちが力強く演じた組体操



気持ちいい芝のグラウンド

七滝中央小運動会

緑の芝生が一面に広がる七滝中央小学校(村上孝利校長、62人)のグラウンドで9月19日、運動会が開催されました。同小では、今年4月に町教育委員会が推進する芝生化事業で、グラウンド約2,000平方メートルを全面芝生に衣替えして初の運動会。児童たちは、徒走や技巧走、応援合戦などの競技を裸足で伸び伸びと駆け回っていました。4年生の藤井美紅さん(七滝)は、「芝がチクチクしたけれど、気持ちよかった。これから芝の運動場でみんなといっぱい遊びたいです」と元氣よく話していました。

児童が魅了する物語の世界

童話発表大会

「第38回児童による童話発表大会」が9月3日、木倉小学校体育館で開かれました。町内の各小学校を代表する児童12人が出場して、持ち時間7分で童話を発表。感情のこもった口調と表現豊かなジェスチャーを織り交ぜながら、観衆を童話の世界へと誘いました。審査の結果、滝尾小4年の野口莉那さん「ぶす」と、小坂小5年の木村朱里さん「とうさん」が最優秀賞に選ばれました。二人は本町代表として9月14日、カルチャーセンターで開かれた「第38回上益城郡童話発表大会」に出場して、堂々と発表をしました。



郡童話発表大会で物語の世界を表現する木村朱里さん(左)



窯の前でピザの焼き具合を見つめる6年生児童たち

学校自慢の石窯ついに完成

高木小で石窯開き

高木小学校(北森光代校長、113人)で10月1日、「夢たまご」と命名された石窯をお披露目する窯開きが行われました。窯は、学校側がシティ・サクセス・ファン ド助成金50万円を活用。作業は、地域住民の高田一 道さんや内田裕希さん、江崎卓也さんが引き受け、6年生児童24人も協力。材料には、耐火レンガ300個や耐火モ ルタルを使用して作った本格的なドーム状の石窯で す。窯開きでは、児童代表で6年生の江崎颯太くん(高 木)が「地域の人、先生、6年生の皆さんで作った窯を大 切にしていきます」とお礼を述べた後、くす玉を割って 完成を祝いました。早速、6年生が作った小麦6キロを 使ってピザやパンを焼いて、全校児童で試食しました。 高田さんは、「ピザの味を思い描きながら石窯を造りま した」と嬉しそうに話していました。